

平成 19 年度 日本獣医師会学会誌編集委員会の会議概要

I 日時 平成 20 年 2 月 9 日(土) 19:00～20:30

II 場所 サンポート高松 63 会議室

III 出席者

【委員】

日本産業動物獣医学会誌編集委員会：

委員長 澤田 勉 (大阪府立大学名誉教授)
佐藤 繁 (岩手大学農学部教授)
八木行雄 (動物衛生研究所研究管理監)

日本小動物獣医学会誌編集委員会：

委員長 中山裕之 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
副委員長 西村亮平 (日本小動物獣医学会理事 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授))
猪熊 壽 (帯広畜産大学畜産学部教授)
西村昌数 (帯広畜産大学畜産学部教授)
大和 修 (鹿児島大学農学部教授)

日本獣医公衆衛生学会誌編集委員会：

委員長 山本茂貴 (日本獣医公衆衛生学会監事 (国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長))
副委員長 高島郁夫 (日本獣医公衆衛生学会理事 (北海道大学大学院獣医学研究科教授))
高島浩介 (東京農業大学客員教授)
津田修治 (岩手大学農学部教授)

学会誌 (分野別) 編集委員会：

明石博臣 (日本産業動物獣医学会副会長 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授))
月瀬 東 (日本大学生物資源科学部教授)
中市統三 (山口大学農学部教授)

(欠席委員)

日本産業動物獣医学会誌編集委員会：

副委員長 小川博之 (東京大学名誉教授)
川村清市 (北里大学名誉教授)

日本獣医公衆衛生学会誌編集委員会：

金内長司 (麻布大学名誉教授)

学会誌 (分野別) 編集委員会：

今井壮一 (日本獣医生命科学大学獣医学部教授)
梅村孝司 (北海道大学大学院獣医学研究科教授)
中澤宗生 (動物衛生研究所疫学研究チーム長)

【学会役員】

日本産業動物獣医学会：

加茂前秀夫（日本産業動物獣医学会会長（東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授））

明石博臣（日本産業動物獣医学会副会長（東京大学大学院農学生命科学研究科教授））

中尾敏彦（日本産業動物獣医学会副会長（山口大学農学部教授））

日本小動物獣医学会：

大橋文人（日本小動物獣医学会会長（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授））

山田英一（日本小動物獣医学会副会長（山田動物クリニック院長））

日本獣医公衆衛生学会：

熊谷 進（日本獣医公衆衛生学会会長（東京大学大学院農学生命科学研究科教授））

石黒直隆（日本獣医公衆衛生学会副会長（岐阜大学応用生物科学部教授））

山田章雄（日本獣医公衆衛生学会副会長（国立感染症研究所獣医科学部長））

（欠席役員）

日本小動物獣医学会：

辻本 元（日本小動物獣医学会副会長（東京大学大学院農学生命科学研究科教授））

【本 会】

大森伸男（日本獣医師会専務理事、日本獣医師会雑誌編集発行者）

酒井健夫（日本獣医師会学術・教育・研究担当理事（日本大生物資源科学部教授））

IV 議 事

【報告事項】

- 1 日本獣医師会学会誌編集状況等
 - (1) 3年間の投稿状況等
 - (2) 平成19年度の編集状況
- 2 日本獣医師会学会誌投稿原稿の審査状況

【協議事項】

今後の編集計画

V 会議概要

会議に先立ち、大森専務理事（日本獣医師会雑誌編集発行者）から以下の挨拶があった。

- (1) 編集委員各位には、ご多忙のところ学会誌の編集及び投稿の促進に尽力いただき感謝する。
- (2) 日本獣医師会では獣医学術団体として、公益法人改革に向け、公益認定を受けるべく対応しており、学会組織と事業運営についてもそのための環境整備等の協議・検討を始めている。学会誌の発行は、獣医学術の振興、普及という、学術団体として重要な役割を担っており、本委員においても円滑なる編集の推進に一層支援をいただきたい。
- (3) 今期の委員は、本年3月末をもって任期終了となるが、できればこれまでどおり次期も委員として留任していただきたいと考えている。

次いで、酒井理事を座長として次のとおり議事が執り行われた。

【報告事項】

1 学会誌編集状況等

(1) 3年間の投稿状況等

事務局から、過去3年間の投稿状況が報告され、特に平成18年度は、3学会とも投稿数が過去5年と比べて増加したことが報告された。

(2) 平成19年度の編集状況

事務局から、採用となった原稿の掲載については、採用順序を基本に、学会間の調整を図りながら編集したことが報告された。

2 学会誌投稿原稿の審査状況

事務局から、平成19年1月末日までの投稿原稿の審査状況が報告された。

【協議事項】

今後の編集計画

事務局から、第61巻第3号（平成20年3月号）から第61巻第8号（平成20年8月号）の編集計画が提案され、次の関連意見が出された後、座長から諮り、異議なく了承された。その後、学会ごとに投稿推進等について意見交換が行われた。

- (1) 投稿原稿は、採用まで指導するよう心がけているが、投稿経験の少ない研究論文等は、規程に沿わない点多々あり、そのような際は担当編集委員へ送付する前に再投稿を依頼している。また、日常の業務等が多忙なためか、初回審査終了した後、著者から、速やかに修正原稿が返送されず、採用までに大変時間を要するケースが多いので、今後対応を検討する。
- (2) 日本小動物獣医学会誌においては、不採用原稿の増加がみられるが、内容が未完成のまま、投稿される原稿も見受けられ、十分校閲した上での投稿が望まれる。
- (3) 日本獣医公衆衛生学会誌においては、本年度の投稿数が減少しており、地区学会にも働きかける等して、投稿原稿の増加に努める必要がある。
- (4) 採用後の論文が掲載までに時間を要すとの声もあるが、近年、採用原稿の増加とともに、殆どの採用原稿がページ超過の傾向にあり、限られた誌面ではあるが、掲載件数の増加に努める努力を行っている。